

令和5年度 山形県立米沢東高等学校 学校評価

○ 校訓・教育精神

修 誠

「修誠」を校訓として、次の陶冶に努めることをもって教育精神とする。
◇ 美しい品性 ◇ 高い知性 ◇ 篤い至誠

○ 教育目標

1 主体的に学び、未来を創造できる人を育てる。
2 至誠と責任を重んじ、社会に貢献できる人を育てる。
3 美しい品性を備え、真理と文化を愛する人を育てる。
4 高い知性と健康な身体をもち、自立できる人を育てる。

○ 目指す学校像

1 「修誠」の精神を継承し、人間性を豊かに育む学校
2 自立した学習者として、生徒が主体的に学び、高め合う学校
3 進学型単位制の特色を生かし、一人一人の夢を達成できる学校
4 高い志と広い視野を持ち、地域に貢献する学校

重点目標		具体的方策	達成状況と今後の課題（自己評価 A:達成／B:概ね達成／C:やや不十分／D:不十分）	評価	学校関係者評価
1	学力の三要素のバランスがとれた学力およびリーディングスキルの育成	① 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業研究	◎ICT機器を活用した授業の増加による、五感を活用して思考させる授業展開 △観点別評価方法の更なる研究	B	○授業評価の実施がよかった。生徒への働きかけ、意義付けが必要であり、心に火をつけることが大切。
		② 創造的な授業と主体的な家庭学習の協働による学習効果の創出	◎新教育課程実施に伴う進度や授業内容、指導法・評価方法についての意欲的な議論 △教科横断的な教職員間の情報共有や共通認識		○落ち着いた雰囲気で授業が行われており、生徒自身に振り替える機会を設けている。
		③ 輝く知性や豊かな人間性を磨くための読書の推進	○NIEの取組 △図書貸出・図書館利用増加		
2	自ら判断し行動できる生徒の育成	① 自主的・自律的な生活態度と公共心の育成	◎各種学校行事における執行部生徒・担当生徒による取り組み ◎酷暑対策のための臨機応変な対応と運営	A	○これからの時代は、個に徹した指導が必要だと感じる。米東の指導はそのような指導が見られる。これからも期待する。
		② 自他を尊重し、お互いが高め合う集団づくり	◎組織的ないじめ防止 ○校内生活状況調査による問題点の把握		△いじめ予防(NGワード指導等)をぜひ行ってほしい。
		③ 自治的・創造的な生徒会活動と自発的・自律的な部活動の推進	○生徒の自主的な部活動運営 △スマートフォン使用やSNS利用に関わるトラブル防止 △自転車乗車時のヘルメット着用		○部活動を通しての成長を感じる。部活動の外部団体との連携も必要。
3	これからを生きぬく力をつける探究型学習とキャリア教育の推進	① 探究型学習の推進による、思考力・判断力・表現力等の育成	○「指導の手引き」等を活用した円滑な活動展開 △思考力・判断力・表現力の更なる育成	B	○探究学習を見学したが充実していた。良い指導が行き届いていると感じた。
		② 総合的な探究の時間における、課題探究学習(i-Seeプロジェクト)の充実・発展	○探究活動時間の確保 ○3年間を見据えたi-Seeプロジェクト活動 △外部機関との連携と人材バンク登録者の拡大		○トンガリコンペや竹あかり活動は生徒にとって良い活動であり、継続して取り組んでほしい。
		③ 高い志を涵養し、個性を伸ばすキャリア教育の推進	◎推薦型・総合選抜型入試の積極的活用 △低学年時からの進路意識の啓蒙 △R7年度入試に向けた情報収集と対応策の検討		△生徒には地域に出て活動し経験を積ませたい。その機会を学校や先生に与えてほしい。
4	健康で安全な学校生活の向上	① 健康・安全に関する正しい理解と自己管理能力の育成	◎保健講話や薬物乱用防止講話、スマホ安全教室 ◎自転車乗車マナーの向上、交通安全意識の高揚	A	◎いじめの早期発見・早期対応が行われており、カウンセラーによる相談を含め一人一人に寄り添ったきめ細かな支援がなされている。
		② 「いのち」の教育の推進と教育相談の充実	◎カウンセラーによる「悩みごと」相談の活用 ○精神衛生指導委員会による協働体制での対応 △対人トラブル、SNS利用に関する問題 △外部機関との連携による支援		△今年度は小雪であったが、学校前の通りの雪が危険。周囲の除雪をしっかりとし、避難が容易にできるように。
		③ 教育環境の整備と危機管理・防災体制の充実	◎校内の危険箇所等の迅速な修繕 ○引率なしでの避難訓練の実施 △校舎老朽化に伴う修繕整備		
5	外部との連携及び働き方改革の推進による活力あふれる学校づくり	① 国際協力、地域貢献・地域づくり活動、校外活動等への積極的参加	○地域行事・中部コミセン活動への協力 △生徒会・部活動単位のボランティア参加者の増加	A	△地域とのつながりが重要。早いうちに結びつけていってほしい。
		② HP等による情報発信・広報活動の充実と、さくら連絡網等による効率的で確実な連絡	◎SNSを積極的に活用した情報発信(更新回数県内1位) ○さくら連絡網による保護者あて連絡の送付		◎SNS等で日頃の活動や生徒の様子を知ることができた。継続して発信をしてほしい。
		③ 保護者の理解・協力を仰いだ、教職員の「働き方改革」の推進	◎さくら連絡網による欠席連絡受付 △「教員の働き改革」を踏まえた修誠会との連携		◎書道・絵画の校外展示会が見事であった。

総合評価

◎全ての教室でのWi-Fi環境が整備されたことに伴い、ICTを活用した授業が一段と推進された。
◎新型コロナウイルスの5類移行に伴い、多くの学校行事がコロナ禍以前と同様に開催された。特に、夏季の学校行事では熱中症対策を講ずる必要から急な変更等が行われる中、3年次生を中心に臨機応変な対応により充実した学校行事となった。主体的、創造的な取組もあり、自ら判断し行動できる生徒が育っている。
◎部活動においては、生徒の自主性を重んじながら学習と両立させ、良い生活リズムをつくることができている。フェンシング部・絵画部の全国大会出場、音楽部吹奏楽班の3年連続東北大会出場等、各種大会で優秀な成績を収めた。
○学校評価アンケートにおいて、「学校に行くのが楽しい」「悩みや不安を相談できる先生がいる」という生徒の高い評価は学校の望ましい姿の一つである。深刻な悩みを抱える生徒の存在の可能性も考えられ、今後より一層生徒理解に努め、体制づくりを構築していく。
○課題探究学習やボランティア活動等で、地域とのかかわりを深めており、地域の持つ教育力を活用しながら、生徒の中には地域への関心、愛情が育っている。今後も継続した活動とさらに多くの生徒が参加できる体制を整えていく必要がある。
△学校評価アンケートにおいて、学校との連携面では保護者による満足度が低い傾向にあり、内容や情報発信の仕方等を含め、改善を進めていく必要がある。
△生徒は学力向上に向けて努力しているが、進路の多様化の実態把握と個に応じた学習指導や進路指導の研究が求められる。

【生徒評価】
「i-Seeプロジェクトの意義を十分理解し、積極的に取組んでいる。」
79% 80% 82% 85% 87% 89% 94% 94% 93% 95%
平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度 平成30年度 令和元年度 令和2年度 令和3年度 令和4年度 令和5年度